

シティプロモーション部

シティプロモーションの推進	Ⅷ-1
観光振興対策	Ⅷ-2
広報	Ⅷ-4
広聴	Ⅷ-5

シティプロモーションの推進

本市の魅力や優位性を市内外に効果的に発信することで都市イメージの向上に努めている。市民が本市を誇りに思う意識を醸成するとともに、市外からの交流人口の増加につなげ、本市の持続的な発展を目指す。

● メディア活用事業

(1) ラジオ番組

東海圏をエリアとするラジオにおいて本市のシティプロモーション番組を放送し、本市の情報や魅力を発信した。

(2) 漫画動画（ボイスコミック）の制作

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催見合わせとなった「東海・北陸B-1 グランプリ in 四日市」と、シティプロモーション映像「必見四日市」シリーズをコラボレーションさせた漫画動画を YouTube で公開し、出展団体のある市町と連携したPRを行った。

● ふるさと応援寄附金制度を活用した本市のPR

本市が感謝の気持ちとして寄附者に贈る返礼品の提供事業者を募集し、返礼メニューの拡大に努めている。

令和2年度の実績は、寄附件数 2,284 件、寄附金額 49,297,644 円であった。

● 地方版図柄入りナンバープレート

自動車のいわゆる「ご当地ナンバー」を導入することで、本市の知名度向上を図るとともに、シビックプライドの醸成を期待している。令和2年度から交付を開始した。

● 名古屋圏における本市の知名度・イメージ向上

PR映像を制作し、名古屋駅構内のデジタルサイネージでくり返し放映することにより、名古屋圏での本市の都市イメージと存在感の向上を図っている。

観光振興対策

四日市の魅力と観光情報を効果的に発信するとともに本市への集客と都市イメージの向上をめざしている。工場夜景、とんてき、四日市萬古焼、日永うちわ、かぶせ茶など四日市の生活に根ざした観光資源の磨き上げを行い、新しい発想での観光振興に取り組むなど、四日市市観光・シティプロモーション条例に基づく各種事業に取り組んだ。

また、直接的な集客に結びつく施策として、各種コンベンションの開催に助成支援も行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大四日市まつりや花火大会などの大規模イベントは開催することはできなかったが、市民の憩いの場、レクリエーションの場として、宮妻峽ヒュッテ、四日市スポーツランド、伊坂ダムサイクルパークなどの維持管理に努めた。

- 観光大使を選任し、本市のイベントへ参加いただくとともに、それぞれのブログ等で本市のPRに努めていただいている。
- 近鉄四日市駅構内の観光案内所にて、本市の観光パンフレットが閲覧できる空間を創出し、情報発信に努めた。また、近鉄四日市駅改札内に、本市を代表する伝統工芸品である萬古焼で制作した「こにゅうどうくん」の陶像を設置し、来訪客のお出迎えを実施した。
観光案内所利用・問合せ件数 4, 470件（令和2年度実績）
- 工場の夜景を海上から観賞するクルーズツアーの認知度向上を支援し、新たな観光客の獲得に努めている。また、工場夜景ツアー実施自治体等で連携した「全国工場夜景サミット」に参加し、全国的な情報発信に努めている。
参加者数 1, 201人（令和2年度実績）
- 学会・会議・大会など、各種コンベンションの開催助成や会場の手配についての相談、資料の提供など受入れ体制を整備し、本市への集客の増大に努めている。
市内で開催された宿泊者延100名以上のコンベンション 2件（令和2年度実績）
コンベンション開催に係る宿泊者数 270人（ ” ）
- 市民に広く親しまれるスポーツ・レクリエーション、健康増進施設として、伊坂ダムサイクルパーク、四日市スポーツランドの運営補助、施設整備を行っている。
利用者数 伊坂ダムサイクルパーク 54, 335人（令和2年度実績）
四日市スポーツランド 80, 047人（ ” ）
- 自然景観に恵まれた鈴鹿国定公園を中心に、宮妻峽ヒュッテの運営管理、東海自然歩道の維持など、自然と調和した観光機能の保持に努めている。
利用者数 宮妻峽ヒュッテ 511人（令和2年度実績）

・ 広 報

市政運営を円滑に行うためには、市民に市政について理解を深めていただくことが必要である。このため、市では、「広報よっかいち」をはじめとした多様な広報媒体を活用して積極的な情報発信を展開している。

- 「広報よっかいち」の発行
 - (1) 発行日 上旬号…毎月 5 日 下旬号…毎月 20 日 号外…年 4 回
但し、5・1 月上旬号は 10 日発行
 - (2) 発行部数 144,044 部 (令和 3 年 3 月下旬号)

- 外国語（ポルトガル語）広報の発行
 - 市内に多く在住する南米系市民に日本の制度や生活ルールなどを伝えるため、平成 20 年度から、ポルトガル語による広報紙を発行している。
 - (1) 発行日 毎月 5 日（7・8 月は合併号）
 - (2) 発行部数 2,200 部（各号）

- テレビ・ラジオによる市政情報等の提供
 - ・よか*イチ！（三重テレビ 地デジ 7ch・15 分番組）の制作放映
三重テレビを通して、シティプロモーション番組「よか*イチ！」を放映。
毎月第 3 金曜日 22：15 から放映している。
 - ・ケーブル NEWS による市政情報発信
CTY の番組ケーブル NEWS のコーナー（地デジ 12ch・5 分程）を活用し、市政情報を発信している。
 - ・三重テレビ放送による放映
三重テレビの番組内の「旬感☆Mie」コーナー（地デジ 7ch・25 分程度）を活用し、イベントや本市の魅力などの情報を発信している。
 - ・「CTY-FM」（76.8MHz）による放送
コミュニティエフエム局の「CTY-FM」に番組枠を設け、身近な情報を発信している。
「マンスリーよっかいち」（市政情報を提供 第 1・3・5 日曜日、2 回/日 5 分番組）
「よっかいちわいわい人探訪！」（市民活動などを紹介 第 2・4 日曜日、2 回/日 5 分番組）
「人権を確かめあう日」（人権啓発番組 毎月 22 日、4 回/日 5 分番組）
「ALO!YOKKAICHI」（ポルトガル語によるお知らせ 土曜日、1 回/日 5 分番組）

- パブリシティによる情報提供
 - 原則として隔週火曜日に、市長による定例記者会見を開催するほか、随時、記者発表や資料提供を行い、市政に関する情報を積極的に報道機関に提供している。

- デザイン名刺の制作
 - 名刺を通して本市の PR を図るため、デザイン名刺の台紙を制作し、市職員などに提供している。

- 四日市 STYLE（市勢要覧）の発刊
 - 本市の自然・歴史・文化等の情報や施策および現況などを分かりやすく紹介する四日市 STYLE（市勢要覧）を制作し、一冊 200 円で販売も行っている。

・ 広 聴

市政を円滑に推進するには、市民とのコミュニケーションを密にし、市民の意見を市政に反映することが重要となっている。このため、面談、文書、電話、電子メール等による市民からの意見、提言等を随時受け付けるほか、次のような広聴活動を展開している。

● 市政アンケート

市政に対する市民の意識や要望などを調査し、市政に反映させるため、市政アンケートを毎年実施している。令和2年度（第48回）は、市の取り組みに対する満足度と今後の期待等をテーマに市民5,000人を対象に実施した（有効回答率：41.7%）。集計結果は「広報よっかいち」や市ホームページなどで公表している。

● インターネットアンケート「市政ごいけんばん」

個別の施策に関して、市民の意見や考え方を迅速に把握して市政に生かすため、あらかじめ登録されたモニターに対してインターネットを活用したアンケート調査を実施している。令和2年度は、「市政情報等提供番組『ちゃんねるよっかいち』について」「特別定額給付金」「三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催およびカナダ体操チームの事前キャンプ」を調査テーマに3回実施した。なお、集計結果は市ホームページで公表している。

● 市政への提案箱

市ホームページに「市政への提案箱」を開設し、市民からの電子メールによる市政への意見や要望等を受け付けている。寄せられた意見等は、担当部局に報告するとともに、回答の必要なものについては担当部局から回答している。令和2年度の受付件数は462件であった。

● パブリックコメント

市民生活に広く影響を及ぼす市政の基本的な計画や条例等の立案過程において案の段階で広く公表し、市民等から意見を求めることで、より良い市政運営を図ることを目的にしている。

令和2年度は、「生活排水処理施設整備(アクションプログラム)(案)」「四日市市客引き行為等の防止に関する条例」「男女共同参画プランよっかいち2021～2025(素案)」「第8次四日市市介護保険事業計画・第9次四日市市高齢者福祉計画(素案)」「第4期四日市市環境計画(案)」「四日市市ごみ処理基本計画(案)」「第2次四日市市市民協働促進計画(素案)」の7件について実施した。